



京都市学校歴史博物館だより

VOL.
12

平成17年6月発行



館長就任並びに正門・石堀の国文化財登録記念

上村淳之新館長講演会

「文化財の保護、そして育成」



京都市学校歴史博物館では、平成17年3月27日(日)午後2時から、本年1月1日付で就任した上村淳之新館長の講演会を開催しました。

1 文化の伝統と育成

文化というのは、その土地、そこに住む人たちの感性、そして宗教心でつくられてきたもの。文化の伝統、継承あるいは育成ということは、そこに住む人、その感性を持った人、それぞれが堅く守り続けてきた、あるいは発展させてきた文化の切磋琢磨があって、今日の文化が育ってきたということが言える。

2 日本画の視点から

西洋にも花や鳥の絵があるが、日本を含む東アジア文化の人たちの自然を見る目線とは違っている。これは、花も鳥も人間も同じ「生きとし生けるもの」という感覚を持って、同じ目線でお互いを見つめ合う、そのなかで生まれてきたのが東アジアの花鳥画である。

3 象徴表現と余白の部分

物の存在している世界、物が存在している空間、この空間の表現を具体的にでなく象徴的に表すことによって、はじめて日本画の特徴である「余白」という空間が生まれる。そして、そのなかに描かれている対象も象徴的に表現しないと整合性がない。日本画、いわゆる東洋画の一つの特徴は、象徴表現である。

この世界を体感しながら描けば、具体性を伴わない余白の部分がおのずからリアリティをもって描けるはず。

4 デッサンが基礎

対象物を克明に見つめ、そしてそれを克明に描き出して、そして確かめる。自分の視覚を確かめて、それからイメージをどんどんつくっていくがために、描写ということが絶対に基礎になるわけである。己の心の中の世界をきちっとつかむこと、これが正しいデッサンであると思う。

5 文化の伝統を守る

文化の伝統を守っていくには何が必要かということ、その土地、その国、その場所、その人たちの感性を大事にすること。東洋の文化は自然の現象を恩恵と受け止めて生きてきた農耕民族の感性から生まれた。したがって、その感性をまず大事にしなければならぬと私は思う。

講演会には210名の方が出席されました。

対談
特別

「平安京の歴史と文学」と語る

平成16年11月21日、学校歴史博物館において、当館館長（現在は退任）、京都大学名誉教授 上田正昭氏と京都市立芸術大学長 中西進氏との対談を開催しました。当日は270名あまりの多数の方々が出席されました。対談はまず上田館長が平安京の歴史について史料に基づいた講演を行い、それを受けて平安京で誕生した平安の文学を中心に中西学長が講演され、最後にお二人の意見交換がなされました。

まず最初に上田館長は、「平安時代をもう一度しっかりと考え直すことで、

現代の京都を見直すことになる。平安京は延暦13年から1074年間、我が国の都であった。千年以上の長い都の歴史を京都は持っている。日本の文化は朝鮮半島、中国大陸を含む渡来文化が重なり合って生まれた。それを変容させた時代が平安時代で、日本の古典美を象徴している。」と述べられました。中西学長は、「平安時代の文学は人間愛の文学で、それは決して貴族だけのものではなく、基本に民衆性を持っている。」と強調されました。平安の文学は日本の古典美を象徴しており、その本質は調和の精神にある。受け入れた文化を変容してきた先人の知恵をもう一度振り返るべきであるという結論に達し、盛況のうちに幕を閉じました。



昔の学校あれこれ

第五回

「学芸会」

学芸会は、もともと日常の学業成績の発表として朗読や唱歌の会を行ったことから始まりました。明治期からこのような会はありましたが、大正時代に子どもの自発性を尊重する考えが盛んになり、学校劇が奨励され、演劇的要素が強くなりました。京都市で最も古い記録は、明治37年3月に梅屋小学校で雨天体操場の落成式の後、学芸会が行われ、遊戯、作品観覧が実施されたというものです。

写真は、大正12年2月、修道小学校の児童劇の様子です。「桃太郎」の劇と思われる。



企画展 平成17年1月22日(土)～4月19日(火)

みて、きいて、 楽しかった教具展より



今回の企画展では京都市内の学校に残されていた教具・教材で子どもの心に強く印象づけられたものを、いくつか紹介しました。

大正期の修道小学校（現東山小学校）では「世界地図の掛図で授業」（写真パネル）が行われていました。前面にメルカトル図法の世界地図を掲げ、左側に視学が座り、教卓を前にして訓導が立ち、着物を着た5・6年生男子の教室授業風景です。子どもたち一人一人が新聞を手に持ち、海外の出来事を地図で確かめ先生の講義を聞いているようです。黒板には「新聞ノ役目」と題し「世ノ中ノデキゴトヲ最モ速ク報ス」「世間ノコト批評、マトマツタ考ヲノベル」の二柱に分けて板書されています。当時、新聞を教材にした学習は新しい教育の先駆けだったのではないのでしょうか。

「標本模型」では「つつじの花」「さくらの花」「双子葉茎構造模型」、「食用菌類模型」「皮膚模型」（鳥津製作所製）が新道小学校に保存されていました。どれも理科教材で外部か



らは見えにくい部分を、観察しやすく各部分の特徴が分かるようになっています。昭和10年代の秀逸な教具でそれを見つめる子どものまなざしの輝きが浮かんできます。

47体の「歴史教材用風俗人形」（中澤教育品製作所、元明倫小学校・元桃園小学校蔵）は、高さ25センチで、台には昭和6年購入のラベルが貼られ、尋常小学国史の授業に用いられたものです。上古・奈良・平安・鎌

倉・室町・安土桃山・江戸初期・江戸元禄・江戸末期・明治維新前後・明治初期に時代区分され、美しく彩色された服装から、子どもたちは歴史上の人物にイメージを膨らませていたことでしょう。「教育博物館」（唐澤富太郎編・昭和52年刊）によると旧制高等女学校において歴史の授業の参考に用いられたと記されています。京都の小学校でも取り入れられ、歴史上の人物イメージを直感的に捉えさせる教材として活用されたものと思われる。

（博物館主事：植松迪夫）

みて、きいて、
楽しかった教具展

明治初期の掛図・絵図を展示して

写真技術や映像技術が未発達な明治初期、子ども達の視覚に訴え、分かりやすく教える手段として、様々な掛図や絵図が作られました。子どもが好きな方向を向いて勉強した江戸時代の寺子屋と違って、先生の方を全員が向く一斉教授法が普及し、掛図や塗板（黒板）が有効に使われた頃の教具です。

今回の企画展に際し、玉川大学教育博物館、富士市立博物館のご協力を得て、京都の学校には残念ながら残らなかった明治初期の掛図や絵図を展示することができました。これらは、主にアメリカで使われていた教材を模倣したのですが、それまでの日本の描写の技術、錦絵を摺る技術などの上に成り立つものであったことが、本物を見ることで再認識できます。また、

これら教具を、現代の教育にも生かせないかという取組が、富士市内の小学校で行われています。当館でも、主事の先生が掛図にある珍しい漢字から、どの様に身近な物の名称表記が変化してきたかを見学の子ども達に説明していただきました。きっと、リアルな映像に慣れた子ども達には、やさしい色合いのこれらの図が、新鮮に写ったのではないかと思います。

（学芸員：竹村佳子）



「第一單語圖」明治7年
文部省 玉川大学教育博物館蔵

企画展

記念の寄贈

～京都市立学校に記念のために贈られた美術工芸品～

現在、学校歴史博物館では、企画展「記念の寄贈～京都市立学校に記念のために贈られた美術工芸品～」を開催しています。

この企画展は、校舎改築や学校創立100周年など、京都市立学校の後世に残る意義深い出来事を記念して寄贈された作品の数々（総展示点数約90点）を展示することにより、卒業生の芸術家や地域の方々の学校への強い思いを感じ取っていただける京都ならではの展示内容となっています。

また、会期中に、母校等に数々の作品を寄贈された中路融人氏、西川實氏による講演会（6/18 中路氏、7/9 西川氏）を開催します。

1 開催期間

平成17年4月23日（土）
～7月19日（火）（会期中展示替あり）

2 展示内容

日本画：山口華楊，西山英雄，木島桜谷，海老名正夫，小松均，中路融人 ほか
油彩：梅原龍三郎，寺松国太郎，池田良則 ほか
陶磁器：西川實，河井寛次郎，楠部彌次
書：富岡鉄斎，中野越南，日比野五鳳 ほか

4 講演会

中路融人氏講演会
6月18日（土）13:30～15:00

西川 實氏講演会
7月 9日（土）13:30～14:30

- ①受付：電話受付（先着70名）
- ②参加費：無料（ただし、観覧料必要）
- ③詳細：学校歴史博物館まで



本館完成・校名変更記念「映象」
中路融人 西京高等学校蔵



校舎竣工記念「風伯」
西川 實 勤修小学校蔵

京都市学校歴史博物館

〒600-8044 京都市下京区御幸町通仏光寺下 5 丁目437
TEL:075-344-1305 FAX:075-344-1327 E-mail:gaku1111@osk.ocn.ne.jp
http://www.gakuzehaku-unet.ocn.ne.jp

- 観覧料 大人200円 子ども（小・中・高）100円
（20名以上の団体 大人160円 子ども80円）
- 京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 林縁日 水曜日（休日の場合は翌日）
12月28日～1月4日



交通 ACCESS

- 阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄/丸太線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 市バス/「四条河原町」駅下車 河原町通より西へ二丁目（御幸町通）より南へ歩5分